

# 保育士養成関連授業は学生の何を変えたのか

— 「乳児」「幼児」イメージを中心に—

鳥丸 佐知子

本論は学生が考える「乳児」「幼児」イメージが、保育士養成のための関連授業を受講することでどう変化するのかを調査したものである。入学直後とすべての実習が終了した1年半後を比較した結果、基礎知識の増加のみでなく、乳児は保育や援助が必要な存在であること、幼児は自分であることが増え、友だちと遊ぶことができるなど、社会性の発達が見られるなど、具体的イメージが絞られてくることが明らかになった。

キーワード：乳児、幼児、友だち、援助、できる

## 1. はじめに

本学の幼児教育学科は、保育士養成校と呼ばれる短期大学のひとつである。そのため本学科に入学する学生の多くは、将来自分が「保育者」になることを当たり前の道筋として思い描いているものが多い。また入学さえできれば、自然の流れで、だれもが保育士の資格を取得できると思込んでいる学生も少なくない。しかし入学後に受講するさまざまな講義や演習の内容、さらには数種類の実習は、時に彼女らが予想していた「保育者」イメージを根本から覆すような、思いがけない経験になることもあるようである。

そもそも彼女らは、「保育者」という職業に対してどのようなイメージを持って入学してくるのであろうか。また関連授業を受講した後、本来持っていた「保育者」イメージのどの部分が変わり、どの部分が維持されるのであろうか。換言すれば、保育士養成のための学びは、彼女らの「保育者」イメージのどこに最も大きな影響を与えるのであろうか。

また、同じ講義や演習、さらに実習を経験す

ることで「保育者」になる夢がさらに大きくなる学生がいる一方で、こんなはずではなかったと、早々に将来の方向転換を考える学生が存在するのは何故なのだろう。さらに近年、就職できたにもかかわらず、短期間で離職するものが増えているともいわれるが、その原因はどこにあるのだろうか。この現象はなぜ増加してきたのであろうか。

鳥丸<sup>1)</sup>(2016)では保育士養成関連の授業を受けることで、学生の持つ「保育者イメージ」がどのように変化するかについてまとめた。そこでは「子ども」と「保護者」と「自分」の立ち位置や距離の変化などが明らかになった。今回は、その時同時に実施した「乳児」「幼児」イメージ(基礎的な知識)の変化についてまとめるものである。

本学の幼児教育学科を希望する学生は、本学が保育士養成校であると分かって入学を希望するものが多く、AO入試の面談の場などでも「子どもが好きだ」と答えるものは非常に多い。また「子どもに癒される」というような表現をするものもいる。

保育者を目指すものとして「子どもが好き」であるというのは、大変重要なポイントであるが、「職業」として保育者を目指すのならば、専門家として子どもに目を向け、子どもの世界を感じとることができるようにならなければならない。気が向いたとき「いっしょに遊んで楽しい」といった意味での「子どもが好き」というのとは大きく異なり、将来的には保育の専門家として、子どもの様子から「気づき・判断し・行動する」力を身に付けることが必要となってくる。そのためには、乳児や幼児に関するさまざまな基礎知識や、その適切な対応法を身に付けることも必要となる。

以前、鳥丸<sup>2)</sup>(2012)の中で、入学前課題として実施している「乳幼児、ふれあいウォッチング」と『教育心理学』の中間レポートとして2回生後期に実施している「乳幼児、ふれあいウォッチング」の内容が、1年半でどう変化するかまとめたことがある。今回もそれに通じるテーマがあるように思われるが、今回は、①「乳児」「幼児」イメージをどのような言葉で形容するか、②簡単なイラスト、③「乳児」「幼児」を簡単な文章表現するとどういうものか、の3つに絞り、入学直後とすべての実習が終了した1年半後を比較する。

## 2. 方法

### 1. 調査対象者

2013年度に、本学幼児教育学科に入学した女子短期大学生を対象とした。

<第1回調査>

2013年度前期『発達心理学』を受講していた女子短期大学生 268名

<第2回調査>

2014年度後期『教育心理学』を受講していた女子短期大学生 246名

### 2. 調査時期

<第1回調査>

2013年度前期『発達心理学』の初回授業時間

<第2回調査>

2014年度後期『教育心理学』の初回授業時間

### 3. 調査内容

「乳児」「幼児」それぞれについて、①どのような言葉で表現（形容）するか、②簡単なイラストで表現、③簡単な文章での表現の3つに絞りまとめる。

### 4. 倫理的配慮

なお調査対象者には、インフォームド・コンセントを行い、本研究への協力に同意したものを調査対象者とした。回答は任意であること、回答の拒否や中断は可能であり、そのことによる不利益は生じないこと、回答者個人を特定しないものであること、教育・研究の目的以外には使用しないことを口頭で説明し了承を得た。

## 3. 結果

「乳児」「幼児」とはどういうものか、まず最初に、簡単な言葉で表現（形容）するならどのような言葉を使用するかについての質問をした。

回答方法として「複数回答可」としたが、全体的に、1回生時の方が沢山の回答が得られた。データの絶対数に差があるため、各学年で上位に上がったものから示したい。

なお、表記上の違い（「可愛い」と「かわいい」等）、ほぼ同様の意味を表すと考えられる（「温かい」「暖かい」「あたたかい」「あったかい」等）はひとつにまとめた。またカッコ内の数字は出現回数である。

「乳児」とは

<形容詞>

① 1 回生時

かわいい (158) ちいさい (95) やわらかい (72)  
まるい (25) あたたかい (21) あいらしい (20)  
いとoshii (10) よわい (含かよわい) (8)  
おさない (6) あかい (5) 等

② 2 回生時

かわいい (79) ちいさい (61) やわらかい (28)  
まるい (16) よわい (7) おおきい (7)  
おさない (6) あたたかい (5) あぶない (3)  
おとなしい (3) おもい (3) あいらしい (2) 等

<名詞>

① 1 回生時

ムチムチ (8) 人見知り (6) におい (6)  
ほっぺ (5) もち (4) ミルク (4)  
おかあさん (4) あかちゃん (3) ことば (3) 等

② 2 回生時

人見知り (8) 自分 (含自我) (5) におい (4)  
ことば (4) 体温 (3) 身体 (2) 感情 (2)  
抱っこ (2) 等

<動詞>

① 1 回生時

泣く (39) 寝る (13) 笑う (10) 飲む (3)  
見る (3) 知る (3) できる (2) 食べる (2) 等

② 2 回生時

泣く (23) 笑う (7) 話す (6)  
寝る (含眠る) (4) 考える (3) 甘える (2)  
できる (2) 動く (2) 癒す (2) 等

「幼児」とは

<形容詞>

① 1 回生時

かわいい (123) あかるい (31) うるさい (26)

たのしい (16) ちいさい (15) おさない (10)  
おもしろい (6) はげしい (6) やさしい (6)  
おおきい (4) いとoshii (4) 等

② 2 回生時

多い (22) 強い (7) 大きい (6) 楽しい (5)  
少ない (4) 著しい (3) 良い (3) 優しい (3)  
幼い (3) 等

<名詞>

① 1 回生時

元気 (80) やんちゃ (15) 活発 (13)  
好奇心旺盛 (11) 自分 (10) 反抗 (5)  
わがまま (5) ムチムチ (4) 人見知り (4)  
無邪気 (4) ことば (3) 等

② 2 回生時

自分 (113) 友だち (66) 子ども (41)  
ことば (36) 気持 (35) 遊び (29) 小学校 (22)  
生活 (17) 元気 (13) 集団 (13) 大人 (13)  
ルール (12) 年齢 (12) トラブル (12) 成長 (11)  
相手 (11) 習慣 (11) 関わり (11) 興味 (9) 等

<動詞>

① 1 回生時

遊ぶ (9) 泣く (8) 笑う (7) 動く (7)  
走る (含走り回る) (7) 歩く (5) わかる (4)  
甘える (3) 言う (3) 等

② 2 回生時

出来る (126) 遊ぶ (62) 増える (33)  
考える (14) 伝える (13) 見る (11) 言う (10)  
関わる (9) 待つ (9) 走る (9) 分かる (8)  
上がる (8) 動く (7) 等

次にそれぞれの代表的なイラストについて示す。こちらについては2学年で大きな差が見られなかったため、それぞれについて、代表的なイメージの図をいくつか紹介する (Fig.1 参照)。

乳児イメージ図



幼児イメージ図



Fig.1 乳幼児イメージ図

まず乳児のイメージについて、こちらはほとんどの絵が、寝ているかハイハイしているかのいずれかで表現されていた。一部、マグマグを使って飲み物を飲んでいる絵が見られた。

一方幼児イメージであるが、こちらは全て立ち姿で、約7割が幼稚園や保育園の制服姿であった。肩からカバンをかけ、帽子をかぶって、スモック姿というのが一番典型的な姿である。

次に「乳児」「幼児」について簡単な文章で表す項目について、1回生時と2回生時に分けて、それぞれすべての文章を入力し、テキストマイニングを実施した。

分析にはフリーソフトウェア「KHCoder」を用いた。まずChaSen（茶筌）を用いて形態素分析を行ない、抽出語を出現頻度順に並べ替えた。

Table1 から Table4 は抽出された語を出現頻度順に並べたものである。今回は出現頻度16回で区切った。またFig.2からFig.5は、その出現頻度上位の語を用いて「共起ネットワーク」図（抽出語を用いて、出現パターンの似通ったものを線で結んだ図）を作成したものである。

自由記述形式で回答を求めたが、入学当時に調査した時の方が記述内容の絶対量が多く、出現頻度16回で図を作成した結果、使用される単語の数に差が出ている。学年別にまとめる。

まず1回生の「乳児」イメージ（Fig.2参照）について見てみると、「泣く」を筆頭に「笑う」「寝る」など日常の様子を表すもの。「小さい」「かわいい」など乳児を形容するもの。お母さんの「母乳」や「ミルク」を飲むことや、「離乳食」を食べるなど食に関するもの。「言葉」を「話す」ことや「歩く」ことに関するものの4つのかたまりがあることが分かる。

具体例として「一日を泣いたり笑ったり寝たりとすごす」「お母さんに抱っこされていて、まだおっぱいを飲んでいるイメージ」「ハイハイ、

おすわりなどは出来るが、まだ、まともに立って歩くことは難しい」「話し始めても片言しか話せない」「母乳またはミルクで育てる時期の子ども」「ミルクを飲んでいてよく泣いてよく寝て、抱っこされているイメージ」「可愛い、手足がちいさくてやわらかい、でもよく泣く。お母さんが大好き」「うまれて何か月かはいっぱい泣く。夜泣きが大変。色んなことを乳児期の間に覚え、できることが増え、はじめての体験が多くとても成長する時期。人見知りをする」「乳で育てられ、歩き出すまでの時期の子ども。母体からの免疫が残っているが、外界適応力はなお弱い。後半期は乳汁のほか、離乳食で保育される」「体型はまん丸で肌はやわらかくプニプニしている。寝ている時間が多い。泣いて相手をしてもらおうとする」などがあつた。

次に「幼児」イメージ（Fig.3参照）について見てみると、「友達」と「遊ぶ」ようになること、「幼稚園」の「時期」、「元気」に「走りまわ（る）」っている「イメージ」、なんでも「自分」で「できる」ようになるし「言葉」も話せるようになる、「小学校」に「就学」する前の「子ども」等のかたまりが見られる。

具体例として「言葉を話すようになって、歩きまわりおちつきがない。いろんなことに興味を持つ。友達とあそんだりするようになる」「幼稚園、保育園などで友達ができたり、遊びが増え、どんどんやんちゃになっていく。動きも活発で激しい」「よく遊び、お友達ともケンカをし始め、色々なことを学ぶ」「幼児とは、歩いたり走ったりできる。自分の思っていることを言葉で伝えられる。運動あそびをする」「幼稚園入学するぐらいの年から小学校に入るまで。何事にも好奇心があり、積極的に挑戦する。言葉を話すようになり、会話ができる。着替えやトイレなど、自分一人ですようとする」「普通のご飯が



2 回生

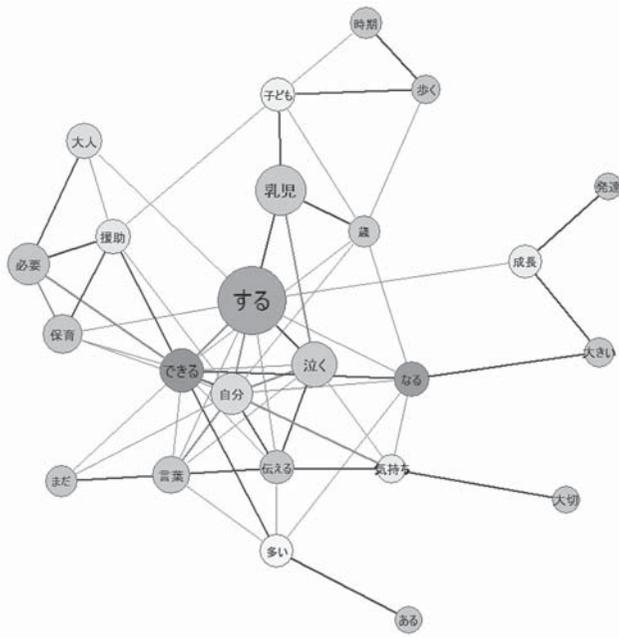


Fig 4. 乳児イメージ

Table 3

抽出語	品詞	出現回数
する	動詞 B	143
乳児	名詞	63
できる	動詞 B	60
泣く	動詞	53
自分	名詞	51
なる	動詞 B	44
必要	形容動詞	42
保育	サ変名詞	42
言葉	名詞	38
子ども	名詞	34
大人	名詞	34
多い	形容詞	32
援助	サ変名詞	31
伝える	動詞	31
成長	サ変名詞	29
時期	副詞可能	23
まだ	副詞 B	22
大きい	形容詞	22
歳	名詞 C	20
歩く	動詞	19
気持ち	名詞	18
ある	動詞 B	17
大切	形容動詞	16
発達	サ変名詞	16

2 回生

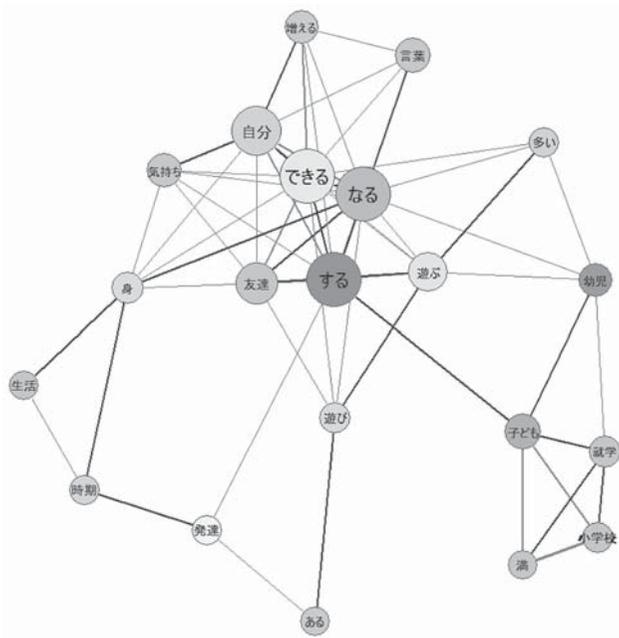


Fig 5. 幼児イメージ

Table 4

抽出語	品詞	出現回数
なる	動詞 B	170
する	動詞 B	140
自分	名詞	113
できる	動詞 B	91
友だち	名詞	64
遊ぶ	動詞	44
友達	名詞	43
子ども	名詞	41
言葉	名詞	36
気持ち	名詞	35
出来る	動詞	35
幼児	名詞	33
増える	動詞	31
遊び	名詞	29
身	名詞 C	26
就学	サ変名詞	24
小学校	名詞	22
多い	形容詞	22
時期	副詞可能	20
ある	動詞 B	19
発達	サ変名詞	19
あそぶ	動詞 B	18
生活	サ変名詞	17
満	人名	16

少しずつ食べられてきたり言葉が話せたり、ちょっと大人になる時期。友だちなど他人とふれあう機会も増えて慣れる時期。集団生活で皆と歩いたり先生の言う意味が分かって理解できる」などがあった。

次に2回生の「乳児」イメージ (Fig.4 参照) について見てみたい。1回生時には見られず、2回生にのみあらわれた内容として、「大人」の「援助」や「保育」を「必要」とする存在であるというものがある。他に「まだ」「言葉」で「自分」の「気持ち」を「伝える」ことができないが、「泣く」ことで「伝える」ことができること、「乳児」は「歩く」ことはできない「時期」であることなどが読み取れる。

具体例として「身の周りのことが自分で出来ないで、保育者などの援助を必要とする」「乳児はまだまだ援助が必要な年齢であるが、“1人でしたい”気持ちが芽生える時期でもあるため、子どもの気持ちを汲み取り、保護者が見守る。出来た時は共に喜び、うれしさを共有する事が大切になる年齢である。援助と見守りを使い分けながら1人で出来る事を確実に増やして行ける様な保育を心がける事が大切である」「初語、一語文、二語文と言葉が増えていく。生活習慣を身につけていく年齢。少しずつハイハイから伝え歩きなど、歩行ができるようになり、1歳ではほとんどの子どもが歩くことができている。食事ミルクから離乳食、普通食と変わっていく」「成長が著しい。ずり這いやハイハイをするようになり、つかまり立ち、つたい歩きが出来る様になる。泣いて気持ちを伝えたり、声を出して大人とコミュニケーションをとる」「保護者や保育者の助けが必ず必要。寝る、泣くが仕事」「自らおもちゃを触って音を楽しんだり保育者の声かけなどに反応する」「児童福祉法では出生から満1歳未満までを指します。語源的には乳で育

てられ歩きだすまでの生後1年から1年半ぐらいまでの時期を指します」などがあった。

次に「幼児」イメージ (Fig.5 参照) について見てみると、「自分」で「できる」ことが「増える」こと、「友達」と「遊」んだり「する」ことが「多い」こと、「小学校」に入る前「就学」前の「歳」であること、身体が「成長」「発達」する「時期」であることなどが読み取れる。1回生時に比べ、焦点が絞られているのも特徴である。

具体例として「友達関係も楽しめるようになり、自分の気持ちも年齢がコントロールできるようになる」「自分のことを自分でしたり、お手伝いをするようになる。2歳頃は自我が芽生え、自己中心的になるが、年齢が上がるにつれ、友だちと一緒にする事を楽しむようになる」「年齢が上がるにつれて、言葉がはっきりしてきて集団での遊びも多くなり、自分達でルールを決め遊ぶこともできるようになってくる」「幼児とはまだ頭が大きい自我が形成されてゆく、満1歳から小学校に就学するまでの子どものことをいう」「1人で行えることが確実に完成し始めている。待つことや考える事もある程度出来、良悪の判断も可能となる。お兄ちゃん、お姉ちゃん意識が高まる為、“かしこくしてほめてもらいたい。”と頑張る姿も見られる。その反面さびしい気持ちを素直に訴えられなかったりする為、保育者は子どもの表情、態度の変化を良く見守っておくべきである。子どもの甘えをそのまま受け取る場合とそうでない時を使い分ける必要がある」「児童福祉法では乳児期満了(満1歳)から学齢(小学校就学)までを指します」「動き、言葉が発達し、普通に大人と人間と接する事ができるようになる。自分でできることも増えてくる。友達とあそんだり、助けてあげたりなど人の気持ちに気付くことができるようになる」などがあった。

2回生は未記入者も多かったが、記入したものについては専門知識も増え、より具体的な記述になっているのがうかがえた。

### 3. 考察

それでは2回の調査結果を比較しながら、質問項目別に、その特徴的な変化と理由について、キーワードとともに考察していきたい。

最初に「どのような言葉で表現（形容）するか」という質問について見てみる。「乳児」に関する表現として、まず形容詞による表現では「かわいい」「ちいさい」「やわらかい」「あたたかい」「よわい」などはいずれの学年でも出現するが2回生のみ出現したもので「あぶない」と「おもい」がある。これは想像や、見ているだけのイメージではなく、実際に関わる経験することによって生まれたイメージだといえるであろう。

次に名詞による表現だが、「人見知り」「におい」「ことば」などが共通。1回生にのみ出現した言葉として「ムチムチ」「もち」「ミルク」があった。一方、2回生にのみ出現したものとして「体温」「感情」「身体」といった言葉がある。1回生時のイメージは、人間というより、人形かペットのようなイメージなのか外からの印象が多いように思う。それに対し、ここでも2回生時には実際に関わった経験があるからこそ出現すると推測される言葉が多いように感じられた。

動詞ではどうだろう。「泣く」「寝る」「笑う」が共通だが、その他については少数意見でもあり乳児に関する動詞表現は、いずれの学年もあまりたくさんは思いつかなかったのではないだろうか。

次に「幼児」の表現について見てみる。まず形容詞による表現だが、1回生に比べ2回生では

なぜかその絶対数が少ない。1回生では乳児と同じく「かわいい」「あかるい」「おさない」といった表現もされるが、2回生になると「多い」「強い」「著しい」など成長に関わる印象を表しているようにも感じる。

次に名詞について見てみると、「元気」と「自分」が共通だが、出現頻度を見ると、1回生では「元気」が、2回生では「自分」がトップに来る。またその他の単語でも「友だち」「遊び」「生活」「集団」「ルール」「トラブル」など、ただ元気なだけではなく、友だちと一緒に遊べるようになっており、そこから生まれる集団生活でのトラブルなども想像されたところからの言葉となっているように感じられる。

最後に動詞による表現だが、ここでは先ほどの形容詞と逆転し、2回生の表現数が圧倒的に多くなる。共通するものは「遊ぶ」「走る」「わかる」「言う」で、1回生のみ言葉として、出現の絶対数は少ないが「泣く」「笑う」「動く」「甘える」などがある。一方2回生のみではまずトップに「出来る」がある。また他には「増える」「考える」「伝える」「見る」「関わる」「待つ」など自分の意志を持って行動をしている幼児の姿が垣間見える表現が多い。

次に「簡単なイラストで表現」という項目だが、ここについては学年による大きな差は見られなかった。「乳児」は基本は寝ているかハイハイしているかのイメージで、「幼児」は幼稚園か保育園に通うときの姿で表現するものが多かった。彼女らにとってこの年齢は、家で過ごすのではなく「園児」のイメージが大きいのだろう。

最後に「簡単な文章での表現」についてまとめる。まず作成した共起ネットワーク図を見ると、全体の印象として、1回生時に比べ2回生では焦点が絞られている印象を受ける。それ

は「幼児」イメージの方が顕著である。

自由記述の具体例からも分かるように、1年半で、いわゆる専門知識も増えてきているし、何より、3回の実習経験の影響は大きいのではないかと感じられる。

実習を通して、頭の中で想像するイメージや思い込み、遠くから眺める存在としての「乳児」や「幼児」ではなく、生きた人間としての感覚がより具体的になってくる。また実習では、いやでも「乳児」や「幼児」と関わらなければならない、その関係性の中で気付いたことも多かったのではないだろうか。生きた人間としての「乳児」や「幼児」は、こちらの思い通りには動いてくれないこともしばしば経験したであろう。また実習中は、この年齢で、こんなに沢山のことができるのかと驚かされることは多いようで、その経験からの気付きも多かったと思われる。

簡単な言葉で表現する質問項目でも得られた結果であるが、「乳児」イメージを動詞で表現する点に関してはあまり差がない。一方で2回生のみに見られる「乳児」は「保育」や「援助」が必要な存在であるという結果は、1年半の授業や実習を通して得られたものであろう。しかし保育園実習を終えたとはいえ、「乳児」に実際に関わった経験はわずかであり、「幼児」に比べると、「乳児」という存在は、まだ彼女らにとって十分に理解できるところまで至っていないようにも感じられる。今後実際に就職し、実体験を重ねる中で、そのイメージはますます豊かになっていくであろう。

一方で「幼児」に関しては、1年半で、イメージがかなり絞られてきているように感じる。「元氣」であるという印象には2学年で差はないが、2回生のみに見られるものとして、社会性の発達をよくとらえていると思われる内容が増加す

る。

子どもは年齢が上がるにつれて、ひとり遊びのみでなく、徐々に「友だち」と遊べるようになってくるが、その遊び方にも年齢によって差が見られること。社会性の発達は、同時に「トラブル」や「ルール」といったことも生じさせるなどへの気づきは、簡単な言葉で表現する項目でも見られたものである。

また「幼児」は「自分」で出来るようになることが増え、自らの意志で気持を表現し、動くことも可能になること。さらに言葉の持つ力などにも気づき始めているようである。こちらも実習経験の影響は大きかったのではないだろうか。

実習中は、園児から教えられる経験も多々あったであろう。子どもの持つ力、創造性の豊かさなど、今後、保育者として関わりながら、ともに育っていく存在としての「乳児」「幼児」イメージが少しずつ豊かになっているのが分かる。

半年後には、彼女らのほとんどが「保育者」としての生活をスタートさせる。今度は実習生ではなく、ひとりの職員としてのスタートである。実習生だからこそ許されていたことにも気づくことになるかもしれない。離職率も高いといわれる「保育者」であるが、資格取得して就職して夢をかなえたのなら、ぜひ長く勤めてほしいと思う昨今である。

#### 引用文献

- 1) 鳥丸佐知子 保育士養成関連授業は学生の何を変えたのかー「保育者」イメージを中心にー 京都文教短期大学『研究紀要』54 41-46 (2016)
- 2) 鳥丸佐知子 実習経験は彼女らの何を変えたのかー入学前課題「乳幼児、ふれあいウォッチング」を通してー 京都文教短期大学『研究紀要』50 105-114 (2012)